長久手町文化の家
NAGAKUTE Cultural Center

フレンズ

No. 37
2009年5月15日発行
機関紙 フレンズ 編集部
Tel：0561(61)3411

フレンズ いっそうの発展をめざし 年次総会を開きました

4月10日 文化の家で

文化の家フレンズの平成21年度総会を、4月10日金曜日、文化の家光のホールで開催しました。

当日、出席した会員は19名でしたが、ハガキによる委任を含め総会の成立を確認のうえ、議長に水野美々子さんを選出しました。

文化の家川上館長の祝辞をいただいた後、議事に入り平成20年度の活動報告、会計報告を全員の賛成で承認。続いて平成21年度の活動計画案・予算案を可決しました。

また、新年度の役員を2ページ記載のように選出し総会を終えました。

フレンズの年次総会で祝辞を述べられる文化の家川上實館長

総会のアトラクションでテルミンの演奏と、参加者による体験を楽しみました

総会のあと、アトラクションとしてテルミン奏者飛里京子さんを招き『テルミン演奏会』をおこないました。『テルミン』とは1920年にロシアの学者レフ・テルミンが発明した世界最初の電子楽器で、電子部品が納まった箱からアンテナが2本出て、演奏者がそのアンテナに手を近づけたり離したりするのにつれ、電子音を発するというめずらしい楽器で、飛里さんの演奏の合間に、総会に出席した皆さんが、このめずらしい楽器をちょっぴり緊張しながら楽しそうに体験しました。

積み重ねの10年 そして 初心を忘れず

フレンズ事務局長 山口節子

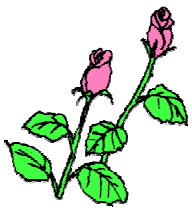
「活動を継続することが一番の目標」といいつつ、あっという間の10年でした。公演の際の受付係・会場案内係からはどんな接待を受けるとうれしいのか、機関紙からはどんな情報がほしいのか、どんな公演があれば参加したくなるのかと、常に一会員として、町民としての視点を大切にしてきました。そのことが、接客技術の研修を重ねた成果としての『文化の家シアターマネジメントマニュアル』の作成につながりました。

初めて経費が100万円を超えるコンサートを企画する際は「こんな企画が私たちにできるのか」と議論を重ね、一大決心のもと実現したのが『喜納昌吉&チャンプルーズ』でした。いまではアーティストを見る目が「いくらで来てくれるのか」に変わってきたスタッフも少なくありません。

日常では経験できなかったであろうことをたくさん経験し、実現させてもらってきました。フレンズと出会わなければ、パソコンを使うことも（教えてもらうために、子どもに叱られるのを我慢することも）なかったでしょう。

ボランティアとして参加しているスタッフは、60人を超えました。みんなが仲間意識をもって楽しく活動を続けていくためには、組織の状況がよくわかり、常に情報を共有できることが大切だと思います。そのために拙いパソコンを駆使して、いろいろな情報を送り続けたいと思っています。

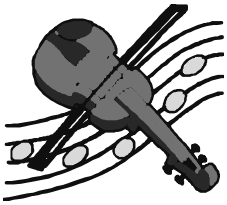
今後は、ボランティアといえども、知識と実践に裏打ちされた接客スキルを持ち、プロに劣らない意識を持って活動できる集団を目指せるといいなと思います。あわせて初心を忘れないためにも、常に新しい仲間が参加しやすい、意見交換が気楽にできる組織でありたいと思います。



文化の家に着任しました　文化の家 新職員のご紹介

4月に行われた長久手町役場の人事異動にともない、文化の家に新しく3名の方が配属されました。

今後、フレンズ会員の皆さんと、文化の家でのいろいろな取り組みに、協力・協働する機会が多いことと思います。よろしくお願いします。



文化の家 事務局長
浅井十三男さん

4月の人事異動で、教育総務課から文化の家事務局長として配属されました浅井十三男です。

文化の家で働くのは初めてで、これまでは国際交流音楽祭や講演会、説明会、芸能フェスタなどで度々ホールを利用してきましたが、自主事業のことやフレンズの活動についてはよく知りませんでした。

開館以来フレンズとともに歩み、成長して今の文化の家があることを知り感謝するばかりです。

文化といえば「棒の手」の指導者として活動しているくらいで、文化・芸術とは無縁でありましたが、これからは肌に感じながら成長していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

文化の家 管理係長
林　元美さん

4月の人事異動で保健医療課から文化の家管理係に配属となりました林元美です。

就職した頃は演劇好きの友人に連れられ、追っかけの端くれをしていましたが、年数が経つうちに観劇の機会が減り、今では文化とは程遠い生活にどっぷりと浸かって……。そんな私が文化の家の勤務になるとは、想像もしませんでした。（追っかけ復活？）。

今は館内で迷子にならないよう、新しい仕事に早く慣れ、利用者の皆さんが「また来たいなぁ」と思えるような文化の家になるよう頑張ってまいりますので、よろしくお願いいたします

文化の家 管理係
柴田 浩善さん

4月の人事異動で財政課から文化の家管理係に配属されました柴田浩善です。

3月までは、財政課で予算編成などの事務仕事が主でしたので、まったく業務が変わってしまい、正直なところ戸惑いもありますが、心機一転がんばっていきますので、よろしくお願いします。

文化の家は、開館時から観客として利用していまして、その折々にフレンズの皆さんの仕事ぶりを拝見してきました。これから、皆さんと一緒に文化の家を盛り上げていけたらと思いますので、よろしくお願いします。

トピックス

シアターマネジメントのマニュアルができました

文化の家が開館して10年。

文化の家とともにフレンズの活動も10年となり、これを機に10年間の活動のまとめとして「文化の家フレンズ シアターマネジメントマニュアル」を作成しました。

文化の家が主催した4回のシアターマネジメント講座での、受講内容をもとに、文化の家のシステムに合わせた、またボランティアとしてのフレンズスタッフの活動はどうあるべきか、活動ひとつひとつ、ていねいに話し合いを重ね、マニュアルを完成しました。

今後、このマニュアルをもとに、スタッフ向けに、研修の機会を設けたり、ホールスタッフにつく際に携行し易いハンドブックタイプの作成も計画し、いっそう豊かな活動を続けていきたいと思います。

平成21年度フレンズ役員

会　長	水野美々子	文化の家運営委員
副会長	福岡八重子	研修部部長 文化の家企画委員
副会長	阪上由美子	事業部部長
会　計	山口　節子	事務局長
	青山つたゑ	当日運営部部長
	岩瀬　信廣	機関紙部部長
	鈴木多恵子	当日運営部副部長
	梅田　小夜	事業部副部長
	牧野　洋子	研修部副部長
監　査	瀬川　典子	
	近藤　一英（文化の家職員）	

フレンズの各部紹介

機関紙部

機関紙を通して
フレンズ会員のきずなを強く
文化の家にいっそうの親しみを

フレンズ発足直後から機関紙発行

フレンズ機関紙第1号は1998年11月に発行しました。

この年7月に、文化の家開館ですから、開館して間もなく機関紙を発行し、文化の家やフレンズとともに10年の歩みを続けてきたことになります。

第1号発行以来10年が過ぎ、機関紙「フレンズ」はこの号で37号に達しました。また、平成17年4月からA4サイズのフレンズ「ミニ」の発行もてがけ、いまではA4・4ページ版と、ミニ版をそれぞれ年3回、計6回発行しています。

年間6回の発行のために、昨年度の場合18回の編集会議を開いて、どんなテーマを紙面に盛り込むかという企画から始まり、原稿の依頼や原稿書き、文章整理、編集作業、パソコン入力、校正、印刷と新聞つくりに似た行程で作業をすすめて、最後に機関紙部以外のスタッフの皆さんの協力も得て、会員の皆さんのもとへ発送する作業をおこなっています。

機関紙発行のために技術の向上もめざします

機関紙づくりに必要な技術を学ぶため、昨年度は中日新聞社主催『広報紙つくりの講習会』にも参加し、有意義な勉強をしてきました。

このほか取材や編集会議の場など実際の作業を通じてパソコンやデジカメ技術を習う機会を設けています。

ワイワイ にぎやかに楽しく、機関紙の発送作業

10年前発行した機関紙第1号の編集後記には、開館直後の公演の入りが思わしくなく「もっと催しに足を運んでいただきたい」という願い。そして会員になったからには「もっと公演の情報がほしい」という思いが機関紙を手がける動機と記されています。

この『思い』を受け継ぎながら、今はそれに加えて、フレンズのさまざまな活動の様子を会員の皆さんに伝えること、機関紙を通じて会員間の結びつきを強め、交流と親睦がいっそう深まるパイプの役割をになうことを念頭に置いて、紙面作りに取り組んでいます。

機関紙作りを通して喜びも得られます

機関紙部員ならではの喜びもあります。機関紙発行のため、企画、原稿書き、編集、パソコン操作、写真撮影など、日頃の生活の中ではあまり経験しない事柄に取り組む機会が得られます。また取材や原稿をお願いするために、いろいろな人に会って、貴重なお話を聞かせていただくなど、機関紙作りならではの体験と喜びを感じています。

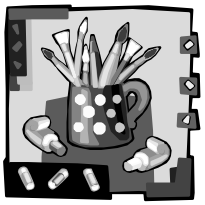
機関紙スタッフを募集中ぜひ　応募してください

第1号の編集後記に「もっとたくさんの人が参加できれば、もっと良いものができるのに」ということばがあります。「機関紙作りの仲間を増やし、良い機関紙を届けたい」という思いは、10年を経た今もまったく変わりませんが、現在の機関紙部員は、ごく限られた人数で取り組んでいます。

機関紙つくりの輪に加わっていただくと、日頃遠ざかっている文章を書くこと、パソコンの操作やデジカメ写真の腕が向上するなど、楽しみも増えます。

現在スタッフである方は、フレンズ役員か機関紙担当のスタッフに「機関紙つくりに参加する」と申し出ていただければ、いつでも参加いただけます。また、まだスタッフに登録されてない方はスタッフ登録をしていただいたうえで、申し出ていただければ機関紙を発行することに参加いただけます。

ぜひ、多くの方が参加していただいて、機関紙つくりにともに取り組んでいただくよう、スタッフ一同お待ちしています。

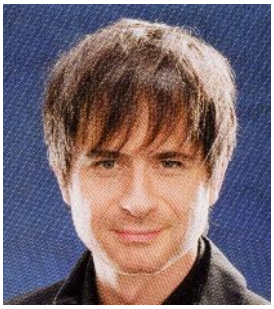


フレンズスタッフ募集　（フレンズスタッフの登録は、いつでも文化の家事務局で受け付けています）

あわせて、機関紙部員を募集します。機関紙部を担当していただくためには、まずフレンズスタッフに登録されていることが条件です。

５月・６月の主な催し物を紹介します

詳しくは文化の家のパンフレットなどをご参照ください　いずれの催し物も前売チケットを発売中です



ピョートル・アンデルシェフスキ ピアノ・リサイタル

昨年12月　満席になったカーネギーホールの興奮が長久手に！

6月3日（水）　１８：３０開場　１９：００開演　文化の家　森のホール　全指定席

J. S. バッハ:パルティータ第6番 ホ短調 BWV. 830
シューマン:ペダル・フリューゲルのための練習曲Op. 56　　ヤナーチェク:霧の中で
ベートーヴェン:ピアノソナタ第31番 変イ長調Op. 110

前売　フレンズ:3, 000円　一般:3, 500円　学生:2, 000円
当日　フレンズ・一般　4, 000円　学生:2, 500円

相思双愛

パンダラコンチャ　ソロアルバム公演

出演:　坂井真紀　辺見えみり　近藤芳正　榎木孝明

時代も作家も異なる二つの原作を融合させて新たな物語を展開
これは、ある愛と命の物語。

6月5日（金）　１８：３０開場　１９：００開演　文化の家　森のホール

前売　指定席　フレンズ:4, 000円　一　般:4, 500円
　　自由席　フレンズ・一般　3, 500円
当日　指定席　フレンズ・一般　5, 000円
　　自由席　フレンズ・一般　4, 000円

三三・山陽・茂山の　ひふみのわらい

壱弐参え 笑

出演
柳家三三（落語）神田山陽（講談）
茂山宗彦・茂山茂・茂山童司（狂言）

6月21日（日）　１５：３０開場　１６：００開演
文化の家　森のホール

前売　フレンズ:3, 000円　一　般:3, 500円
当日　フレンズ・一般　3, 500円
全自由席

編集者コラム

数ヶ月前凍てつくような冬の夜、ウォーキングでふと立ち寄った公園。そこで見たのはマンション群の灯りをバックに、夜のしじまに輝く杁ヶ池の息を呑むような（チョッとオーバー…）美しい風景。

人々の暮らしを感じさせる明かりはイルミネーションとなり昼間の風景を一変させた。

水ぬるむ季節の今も時々足を運ぶが、杁ヶ池の夜景には真冬の凛とした空気が似合うように思う。

さ

オペラの思い出

ほっとすぺーす

長久手在住　ＩＴ

私とオペラの出会いは、今から10年以上前にさかのぼる。名古屋市の生涯学習センターで希望した講座が満杯で、定員に満たないイタリア語講座をすすめられた。そのときのイタリア人講師が最初の授業で見せて下さったのが「トスカ」だった。それをきっかけに仲間とオペラを勉強し始めた。

今、手元に残るパンフレットを見ると95年の県芸大の「ヘンゼルとグレーテル」を皮切りに、県や名古屋市の文化振興事業団主催のオペラなどを欠かさず見ている。

99年から芸大オペラは長久手町文化の家で上演されるようになり、特に「ドン・ジョバンニ」は主人公が、地獄にどのように落ちるかを注意深く見守ったものだ。

97年のメトロポリタン名古屋公演では、当日券を求めて前夜から並び、パヴァロッティの「トスカ」とドミンゴ指揮する「カルメン」のチケットを手に入れることができた。隣席の人が「星は光りて」を聞くたびに涙が出ると話されたことは今でも鮮やかに覚えている。そういう心境になるには年数を要したが、人の心を感動させる音楽にひたっていった。

その間にナゴヤドーム、豊田スタジアムの柿落としに再度パヴァロッティや憧れのカレーラスの歌を聞けたことはなんと幸せだったことか。常にオペラグラスが必要な席ではあったが。

今思うとあの頃が一番愛知が輝いていた時代だったのだ。